

<p>学力調査等の状況</p> <p>【国語】「知識及び技能」における「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」「(3)我が国の言語文化に関する事項」の正答率が低い。主語と述語の関係をつまみ、話し言葉と書き言葉を区別したりすることが苦手である。</p> <p>【算数】記述式の問題形式の正答率が低く、考えを式に表して解答を導くことが苦手である。校内研で国語科の研究を行なって3年間行った。本校の傾向としては、基礎的な力は概ね定着しているが、苦手としているのが思考力・判断力・表現力ということがわかった。算数科でも同様に、事象の理由を述べる力に課題が見つかった。</p>

<p>見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確実な基礎基本の定着と自分の考えの表現 →算数は特に計算の基本的知識・技能の習得を各学年ごと定着できるよう繰り返し練習することが必要である。宿題や朝学習でプリント等を活用して、繰り返し学習して、確実に身に付けられるようにする。どの教科でも「書く」習慣を取り入れ、躊躇なく書けるよう、初めは質より量を目指す。また、読書活動を通して、文章に慣れ親しみ、作者の意図や登場人物の気持ちを読み取ること、文章の意味を読み取る力を身に付けるとともに、文章を読む機会を作ることで語彙力を高めていく。 ・事象の理由を分かりやすく表現する力。 →知識としての話型を身につけさせ、一単位時間や単元計画の中で、自分の考えを表現させる活動や場面を意図的に設定する。また、「話す・聞く」の活動では、多様な表現の方法を知ったり紹介したりし、表現する力を高められるようにする。

<p>授業をデザインする8つの取組について</p>	
見通しをもたせる導入	学習のめあての確認だけでなく、単元のゴールと学習のゴールを視覚化することで、どの児童も見通しがもてるようにする。また、具体的な資料提示や見本、問いかけなど必要な学びへの工夫をし、学習への意欲をもたせられるようにする。
価値ある対話の共有	意見交流では、目的に応じて対話の形態を工夫する。多様な見方・考え方を働かせ、自分とは違う意見を知ることや認め合うことの楽しさを味わわせる。
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・MNEポータルを参考に、タブレット端末等を効果的に活用する。 ・児童一人一人、音声入力やローマ字入力の取得など、協同的な学びや意見の交流・集約・比較等に向けた基本的操作方法を向上させるとともに情報モラルについても計画的に指導していく。 ・プログラミングを基に、物事の目的や意図を的確に捉えられるようにするために、プログラミングの思考を育成していく。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、課題解決的な学習の工夫、構造的な板書の活用に取り組み、全教科の基盤となる国語力を育てる。 ・低学年では叙述をもとに想像して読むことを意識させる。高学年では他の人の考えを自分の考えに生かせるよう、発表の機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を豊かにするために、身近なことを表す語句の量を増やし、語や文章の中で使えるようにする。 ・毎週図書書の時間を確保し、読み聞かせやブックトーク等、児童へ読書の楽しさを伝える。 ・文章の中の重要な語や文を選び出し、登場人物の気持ちがわかるような様子や行動に着目して、具体的に想像したりできるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使えるようにする。 ・読書に親しんだり自分の考えを進んで表現したりする活動を充実させる。 ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したり、登場人物の変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて想像したりできるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使えるようにする。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを深められるよう指導していく。 ・読解指導では、大切な言葉や文章を見付けるにとどまらず、それらを用いて自分で再構築しながら、筆者の意図を述べる等、書く活動も行っていく。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」(基礎・基本)の確実な習得とともに問題解決的な学習を通して、考える力を育てる学習指導の工夫を行い、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(中学年からのスタートに向けて)社会的な身近な事象に興味をもたせ、自分なりの意見や考え、気付きや疑問を表現する方法を身に付ける。 ・自分と身近な人々や社会に気付き、日常生活の中で気付きや疑問をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料やグラフを読み取る力の向上に向け、資料集やタブレット端末等も活用して問題解決の方法を身に付ける。 ・学習したことや調べたこと、体験学習を通して考えたこと等を要約し、まとめる活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフ、写真資料等を活用し、様々な要因を関連付けて疑問をもたせたり、推測させたりしながら問題解決する力を付けさせる。 ・友達と話し合ったり、意見を交換しあったりする場を設定することで、様々な見方・考え方ができるようになる。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」(基礎・基本)の確実な習得のために全学年で習熟度別グループ編成による算数少人数指導の充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るとともに、自ら課題を捉え、自分の考えを説明できるよう指導をしていく。 ・かけ算までの基本的な計算技能の習得を行う。特に、繰り上がりたし算・繰り下がりのある引き算、かけ算九九の暗唱の定着を確実にする。 ・誰とでも、自分の考えを交流させられる素地を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るとともに、自ら課題を捉え、自分の考えを図や式、言葉で表現できるよう指導をしていく。 ・四則演算の定着率9割以上を目指す。 ・自分の考えを表現する選択肢を増やせるよう、ペアやトリオ等、習熟度に合った方法で考えの交流時間を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図るとともに、自ら課題を捉え、自分の考えを図や式、言葉で表現し、分かりやすく説明ができるよう指導をしていく。 ・学習と生活場面が関連させられることを意識させ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。 ・自分の考えと友達の考えとの相違や関連について、気付いたことや新たな発見を表現することができるよう指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を通して、五感を使って観察や実験をし、既習事項を生かして、問題解決方法を考え、実験の結果から考察をまとめる学習過程を通して、科学的な思考力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(中学年からのスタートに向けて)現時点で意識する指導の重点 ・自分と身近な自然に気付き、愛着を持って行動していく意識をもち同時に、学習の中で気付きや疑問をもてるよう、声掛けの工夫をしていく。 ・気付きや疑問を表現する方法を身に付ける時間をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の基本的な技能を身に付けさせる。また、生物や地球、科学についての基礎的な知識を習得させる。 ・問題解決的な学習を進めるに当たって、五感を使って観察したり、実験したりすることを多く取り入れ、観察や実験の結果から何が分かったのか、何が言えるのかを表現させる活動を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を表などに整理し、自分の考えを明確にした後、事実とその解釈とを整理して説明する授業展開をしていく。 ・問題解決的な学習を通して、考える力を育てる学習指導の中で、思考力・判断力・表現力の育成を図る。特に自分の考えを文章化し、表現することを適宜行っていく。 ・自己の考えを伝え合う中で他者の考えを認め、学び合えるようになる。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の中の気付きを大切に、その気付きや思いを、言葉で表現できるよう指導する。 身近な人や社会、自然との関わりを通してよさに気付けるようにする。 ワークシートやICT機器を活用し、可視化を図り、重ねた学びをまとめたりふり返ったりできるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意図をもち、音楽を感じ取ったり工夫したりすることができるようにするとともに、思いを表現するための技能を身に付けられるようにする。 友達との関わりを通して音楽を創り上げていく喜びや達成感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器演奏や読譜の学習ではモジュールステップの学習課題を設定し、音楽の基礎的な技能や知識の定着を図る。 個や友達と一緒に等、身体表現を通して、リズムにのることを楽しめる工夫を取り入れる。 よりよい表現を目指し、自然で無理のない歌声で歌うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器演奏や読譜の学習ではモジュールステップの学習課題を設定し、音楽の基礎的な技能や知識の定着を図る。さらに、音楽に対する自分の思いをもち、その思いを表現することができる技能を身に付けるようにする。 友達の音や声を聴きながら音楽を創り上げることができる合奏・合唱・グループ活動の学習を取り入れ、進んで音楽に関わりながら、協力して学習することができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現に対する自分の思いや意図をもつとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができるようにする。 対話的な活動を通して、自分の思いや意図を伝えたり友達の考えを受け入れてさらによりよい音楽を表現しようと、主体的に音楽に関わるができるように指導する。 グループ活動から、お互いに
図工科	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の表現したいことを期待をもって発想できるような教材の選択と提示を行い、つくる楽しさを味わわせる。 道具の基本的な使い方を段階的に指導し、経験を重ねながら安全・有効に使える力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を定着させるために使い方や片付け方を中心に、技術習得に向けた指導を行う。 完成までの見通しを持たせるために、学習全体の流れを最初に提示し、計画的に進められるように指導する。 互いの作品の鑑賞を通して、良さを伝え合い、考えや気付きを共有させることで、見方や感じ方を養う。 タブレット端末等を活用して、道具や材料の扱い方を提示し、低学年で習得する知識や技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を定着させるために使い方や片付け方を中心に、技術習得に向けた指導を行う。 完成までの見通しをもたせるために、学習全体の流れを最初に提示し、計画的に進められるように指導する。 児童の発想を広げるために作品例を提示し、様々な素材と出会えるような教材の選定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく制作できるような教材の選定や、制作手順やポイントを分かりやすく提示していく。 鑑賞活動では、「何がよい点なのか」「どうして効果的なのか」を具体的に表現できない児童がいるため、鑑賞のポイントを提示し、児童相互の交流する時間を確保しながら作品のよさに触れられるようにする。 既習事項や優れた作品を提示・紹介することで、工夫できる選択肢を増やしたり表現の参考にしたりにできるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員としての自覚を育て、衣食住に関する実践的・体験的活動を通して生きる力を育んでいく。 家庭での課題に取り組むことで実践力を高めていく。 			<ul style="list-style-type: none"> 生活経験が少ない児童にも、分かりやすく学べるよう教材の提示を工夫する。また、自立の素地を養うために、家庭での役割を理解し、家庭と連携して実践できる場を設ける。 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解できるように指導していく。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 「町田ボール」をボールゲームの起点と位置付け、その他のゴール型(ゲーム)の楽しさを味わわせ、児童の日常的な運動量の増加を目指す。 どの運動領域においても、ペアやグループでの学習を行い、協同的に課題を解決する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動遊びを通して、基本的な動きが身に付けられるよう、場の設定や教材・指導の工夫を行っていく。 学習カードの活用や友達との話し合いを通して、自分の動きについて知ったり友達と一緒に運動することができるようにする。 思考力を身に付けるために、授業の終わりの「振り返り」で、自分や友達のよさについて発表する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 一単位時間の授業の流れを明確にすることで、児童が見通しをもって主体的に運動に取り組むことができるようにしていく。 学習カードや映像資料等を活用し、運動の特性やよい動きなどについて理解するとともに、児童一人一人がめあてをもって運動に取り組む、できる喜びを感じられるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一単位時間の授業の流れを明確にし、児童が自分の体力や技能の向上に関心をもち、主体的に運動に取り組むことができるようにしていく。 学習カードや映像資料等を活用するとともに、ペアやトリオ、グループでの学習を設定し、運動の楽しさや技能のポイントを共有したり、互いのよさを認め合い高め合ったりすることができるように指導していく。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> えいごのままだ推進事業の趣旨を踏まえ、ALTと連携した活動的に楽しい英語学習の実現を目指し、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じ、日常生活に関する身近な事柄や自分のことについて振り返る機会を設ける。 			<ul style="list-style-type: none"> レッスンで習ったことを、読む書く、話すことを系統的に行い、ペアやグループなど、集団を変化させて他者との関わりをもてるようにする。様々な意見に触れる機会を増やすことで、相互理解を図れるようにする。 学習内容に応じて、ICT機器等を効果的に活用し、興味関心をもたせたり、表現の幅を広げさせたりしていく。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	異学年及び特別支援学級の児童や地域社会との交流体験を通して、コミュニケーション能力や自己の生き方を考える力等の「共に生きる力」を育成し、豊かな人間性・社会性を培う。		・情報収集や表現など様々な場面でタブレット端末を適切に活用していく。 ・学習の進め方を身に付けさせるために「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程を明確に提示し、児童が意識しながら学習を進められるようにする。 ・主体的に課題を探究しようとする児童の意欲と意識を高めるために、導入の仕方を工夫したり、体験活動を計画したりする。	・「整理・分析」では、多様な思考ツールを経験させ、どのような情報処理をする際に、どのような思考ツールを使うと良いか理解させる。 ・主体的に課題を探究しようとする児童の意欲と意識を高めるために、導入の仕方を工夫したり、体験活動を計画したりする。 ・「まとめ・表現」では、探究してきたことを振り返らせ、新たな課題を見出させたり、身に付けた力を今後どのように生かしていくか考えさせたりする。
特別の教科 道徳	主たる教材である教科書を活用し、全ての内容項目を網羅した上で、互いの人権や生命を尊重し、信頼と協力を大切にし、社会に貢献する道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	・児童一人一人が教材内容が理解できるようペーパーサートや紙芝居等を効果的に取り入れ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。 ・発達段階に合わせたワークシートの活用を続け、1年間の変容を見取ることができるよう、ワークシートをファイリングしていく。 ・写真や動画、音楽などのICTを活用し、教材に対してより深く考えられるように工夫する。	・発達段階に合わせたワークシートの活用を続け、1年間の変容を見取ることができるよう、ワークシートをファイリングしていく。 ・授業の終末で、自分自身を見つめて考えた内容が表現しやすいワークシートの形式を工夫する。 ・写真や動画、音楽などのICTを活用し、教材に対してより深く考えられるように工夫する。	・発達段階に合わせたワークシートの活用を続け、1年間の変容を見取ることができるよう、ワークシートをファイリングしていく。 ・授業の終末で、自分自身を見つめる時間を確保し、考えたことが表現しやすいワークシートの形式を工夫する。 ・写真や動画、音楽などのICTを活用し、教材に対してより深く考えられるように工夫する。
特別活動	学級活動では、町田っ子カリキュラム(規範教育)を通して集団の一員としての役割を自覚し、自らの生活を向上させようとする意欲と実践的な態度を培う。	・学級のきまりや係活動や、一人一人の役割等についての話し合いを通し、学級の一員としての自覚をもたせる。 ・意欲的に活動することができるように自分の活動を振り返る時間を設定する。	・一人一役の係活動を行うことで、学級の一員としての自覚を高める。 ・学級での話し合いを通し、互いのよさや一人一人の考え・意見に触れ、認め合いや他者を思いやる心情を育てる。 ・児童をどのように成長させたいか見通しを持って単元を設定する。	・個々の役割を明確にもたせながら、学校や学年の行事等の準備、計画に意欲的に参画できる態度を育てる。 ・委員会活動の目的や意義を確認し、常時活動だけでなく児童が主体的に活動できるようにする。 ・コロナ禍を経て、可能な活動内容が増えてきた中で、児童にとって魅力あるものになるよう、可能な活動方法・計画を考える。
外国語活動	えいごのまちだ推進授業の趣旨を踏まえ、ALTと綿密に連携した活動的で楽しい英語授業の実現を図り、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。	・簡単な挨拶や身の回りのものを表す英語に触れ、英語の歌やゲームを通してコミュニケーションを図る楽しさを体験することを重点とする。 ・そのために、主に「ICTの活用」「見通しを持たせる導入」の2つの取組を行っていく。インタラクティブの提供する教材を主で活用する。	・知識として語句や表現を与えるのではなく、音声や事物を結びつける活動を通して、児童自身がその意味を理解し語句や表現に慣れ親しんでいくことを重点とする。 ・そのために、主に「ICTの活用」「見通しを持たせる導入」の2つの取組を行っていく。中学年ではLet's Try1を主で活用する。	